



## モンゴル帝国の建設 (草原の道の王者③)

7月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2022年7月21日(木)

チンギス・ハーンとその後継者によって建設された**モンゴル帝国**は、中国大陸、北ユーラシア、中央アジア、西アジア、南ロシア、東欧にまたがる**広大な地域を支配**し、世界史の動きに大きな影響を与えた。

ユーラシアに存在した様々な民族、政治、経済、宗教、文化、技術を取り集めて、**一つの文明体系を作った**と言える。

その最大の貢献は、**ユーラシアの交通路を整備**し、これを統合、商業の一大発展をもたらしたことである。

チンギス・ハーン自身、中央アジアのオアシス路を通過して進軍、まず、その商業路を支配、これを草原の道と統合し、**ユーラシア内陸部に通商都市を設け**、輸送や旅行者の便宜を図り、**安全な通商に貢献**した。

また、中国大陸を征服した元朝は、積極的に東南アジアに進出し、**南海貿易に力を注ぎ**、インド洋を介して、イスラム諸国と交易を行った。この草原の道とオアシス路、さらに南海路を連結し、ユーラシア、中国、東南アジア、インド洋、西アジア、地中海、ヨーロッパを巡る**大循環路を完成**した。

この交通路が東西文明の交流を活発にした。

この大循環路を通じて、**ユーラシア大陸の東西は、陸路を通じても、海路を通じても、綿密に結び合わされた**。

活字印刷や火薬、火器が宋からモンゴルを経て、西欧へ伝えられたのもこの大循環路を通じてのことであった。

**マルコ・ポーロ**は、1270年末、ヴェネツィアを商人の父や叔父に連れられて、**オアシス路を通過して元の上都に着き**、フビライに仕えて16年余り中国に滞在。その後、**イル・ハン国に嫁ぐ皇女に従い**、1292年、泉州を出航、ホルムズに着き、オアシス路を通過してヴェネツィアに帰っている。

26年に及んだマルコ・ポーロの大旅行も、ユーラシアの陸と海の大循環路を通過して一周したことになる。

モンゴル帝国は、支配した諸民族から**様々な知識や技術、情報や文化を吸収**し、中国文化の薬学や医学の知識を得、道教や儒教、チベットの仏教など宗教的な影響も受けている。また、**イスラムの強い影響を受け**、その経済と文化を高く評価し、**モンゴルの経済発展に大きな貢献**を受けている。

参考：(モンゴル帝国の興亡、岡田英弘著、筑摩書房、草原の道 文明交流圏  
小林道憲著、草原帝国、重慶出版社 格魯塞著)